日隈市議 一般質問

生活保護の減額 くらしギリギリ

保護申請は月10件超え 生活相談は2百件超え

日隈知重市議は9月10日、「生活保護の減額で、生活保護利用者のくらしはギリギリ」と指摘。市の利用者に対する指導援助を改善するよう、一般質問で求めました。

日隈市議は「電気代を抑えるためにエアコンの使用をガマンする危険な実態がある」と指摘しました。ある男性は「朝9時から夕方4時までエアコンを入れて、電気代が1カ月6千8百円。1週間で2合のコメを食べて、足りない分は一袋百円のそうめんや38円のうどん玉で腹を満たしている」と話しています（左の図）。

福祉保健部長は「生活保護の申請件数は一桁の数で推移していたが、最近は10件を超え、7月は17件と極めて高い申請件数になっている。生活困窮の相談は、6月から2百件を超えている」「市のケースワーカーが生活保護利用者を訪問し、食費が高いとの声を聞いている」と答えました。

日隈市議は「最高裁の生活保護減額取消し訴訟で原告勝訴の判決が出ても、基準引下げは今も改善されていない」と指摘します。

生活保護利用者のくらしぶり

2021年3月 生活実態調査

部落解放同盟と協議し実施

調査対象は運動体との協議により決定

日隈市議は9月10日、「生活実態調のやり方は、部落差別の解消どころか、差別の固定化、永久化になりかねない」と指摘。市の考えをただしました。

日田市は2021年3月、部落解放同盟大分県連合会の要望に応えて生活実態調査を行いました。

日隈市議は「調査対象世帯を誰が決めて、どのように調査したのか」と質問。市民環境部長は「運動体（部落解放同盟）との協議により決定した。調査票を各世帯に配布し、回収して調査した」と答えました。

日隈市議は「市が旧対象地区（同和地区）に住む住民を掘りおこす。部落差別の解消どころか、差別の固定化、永久化になりかねない」と指摘し、市の考えをただしました。市民環境部長は「調査にあたって新たな差別を生み出さないことは、念頭に置いている。問題はない」と答えました。

日隈市議は「結婚差別を含む体験があったのか、なかったのか。今も続いているのか。その調査に基づいて部落差別解消の施策が行われる。しかし、市は調査結果を答えない」と追及し、市の姿勢をただしました。

2024年度分 決算審査 特別障害者手当の申請は年間3名

特別障害者手当の受給者は51名から55名

市議会決算審査特別委員会の教育福祉分科会は10月10日、日田市2024年度決算の福祉保健部にかかる事業を審査。日隈市議は、特別障害者手当の新規申請と認定状況、課題を質問しました。

特別障害者手当は、最重度の心身障がい者に支給される手当です。2024年度の受給者は、各月で51名から55名。新規の申請者は、年間3名と少ない状況です。新規の申請が少ない理由は、日田市ホームページで対象者を「重度障がい者で、常時特別の介護を必要とする人」としか書いていないことにあります。

特別障害者手当の対象者は、いくつかの認定基準があります。肢体不自由の場合、どれか一つの障害に当てはまり、その上で、立ち上がる、とじひもを結ぶ、ワイシャツのボタンをとめるなど日常生活動作の評価で10点以上が必要です（左の表のとおり）。以上のような説明を市民に知らせれば、特別障害者手当の申請は増えるはずです。

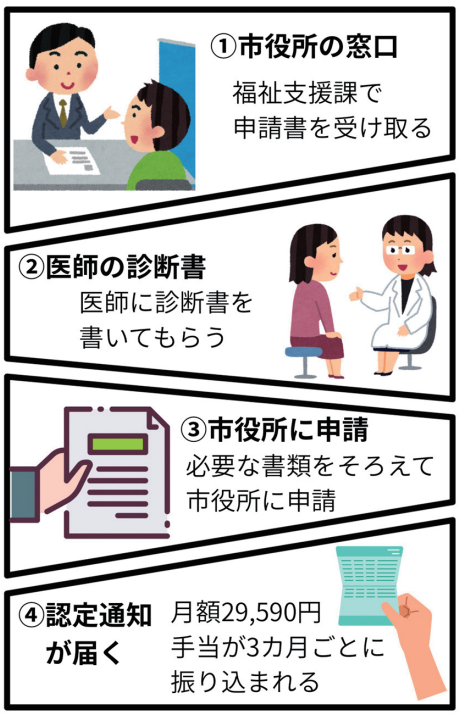
表1　肢体不自由の基準（いずれか一つ）

両上肢の機能に著しい障害を有するもの、または両上肢のすべての指を欠くもの、もしくは両上肢のすべての指の機能に著しい障害を有するもの
両下肢の機能に著しい障害を有するもの、または両下肢を足関節以上で欠くもの
体幹の機能に座っていることができない程度、または立ち上がることができない程度の障害を有するもの

表2　日常生活動作評価表（10点以上）

動作	評価
タオルを絞る（水を切れる程度）	ひとりでできる場合　…0点 ひとりでできてもうまくできない場合　…1点 ひとりでは全くできない場合　…2点
座る（正座・横すわり・あぐら・脚なげだしの姿勢を持続する）	
立ち上がる	
片足で立つ	
階段の昇降	
とじひもを結ぶ	5秒以内にできる…0点 10秒以内にできる…1点 10秒ではできない…2点
かぶりシャツを着て脱ぐ	30秒以内にできる…0点 1分以内にできる…1点 1分ではできない…2点
ワイシャツのボタンをとめる	

特別障害者手当申請の流れ



特別障害者手当の申請 要介護の高齢者でもできる

誰ひとり取り残さない

特別障害者手当は、車いすで介助が必要な人や介護保険の認定が3以上の人は認定される可能性があります。

介護保険の認定が要介護3以上の人は、全国に240万人。対象外の特別養護老人ホーム入所者を除いても、約184万2千人は対象者です。しかし、この手当の受給者は13万6千人です。

日隈市議は10月10日、決算審査特別委員会の教育福祉分科会で「市ホームページ、市報、チラシなどで市民にわかりやすく知らせ、特別障害者手当を受給できる権利を保障せよ」と要望しました。担当課から「検討する」との回答を得ています。

特別障害者手当の申請の流れは、左のとおりです。